

Title	序
Sub Title	Preface
Author	大村, 彰道
Publisher	三田哲學會
Publication year	2006
Jtitle	哲學 No.115 (2006. 2) ,p.i- ii
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集教育研究の現在-教育の統合的理解を目指して-
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000115-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

大村 彰 道

最近の数年間は、日本の生徒や学生の学力不足をめぐって活発な議論が続いた。2004年12月にあいついで発表された学習到達度調査(PISA)、国際数学・理科教育調査(TIMSS)という二つの国際学力比較調査の結果から学力低下が明らかになった。全国学力調査を定期的に行う、基本的ドリルの時間を確保する、教育内容を再び増やす、大学入試の科目数を増やす、などという修正が始まり、国民的関心を集めた学力論争も沈静化したように見える。毎年発生する少年少女による想像を絶する凶悪犯罪は、その原因をめぐり手探り状態が続き、有効な方策が見出せず、ひどいことが起こった起こったと騒いでいるうちに関心が薄れ、新たに同じような事件が起こると再び議論が沸き起こる。以上の問題ほどには国民的関心は高まっていないが、義務教育費の負担の問題、6-3-3制の見直しの問題、など次々に議論すべきことが生じている。

めまぐるしく変化する教育問題の解決を図る方策を視野に置きながら、さまざまな教育学の研究が行われている。現実的解決策を提案する研究もあれば、生々しい現実問題からは距離を置き、より深く根本的に教育を考える研究もある。

本号では、若手研究者の研究を特集することにより、慶應義塾大学における教育学研究の特徴を明らかにすることを目的とした。西洋の教育思想、音楽教育・受験予備校・読書教育・徳育に関する教育史的研究、教育に対する行動遺伝学的研究、青少年の適応問題と精神的健康の研究、教授・学習過程に関する認知心理学的研究などが、本号には掲載されている。

序

今回の特集号には入れられなかったが、道徳教育論，教育内容論，教育方法論，教育評価論，比較教育学，高等教育論，学校臨床心理学，言語と教育，など広範な教育学研究が行われている。

(文学部教授，大学院社会学研究科委員)